

エコアクション21 環境活動レポート

第49期分

【平成30年8月1日～令和元年7月31日】

2019年11月10日 発行



●地球を守る地域のリサイクルパートナー●

株式会社 三栄サービス

代表取締役 紺野 琢生

■目次

- ・ 基本理念、環境方針
- ・ 事業活動の概要
- ・ 処理フロー図
- ・ 環境目標
- ・ 主要な環境活動計画の内容
- ・ 環境活動への取り組み結果と評価
- ・ 環境関連法規への違反・訴訟等の有無
- ・ 代表者による評価と見直し
- ・ 環境管理責任者・担当者によるコメント



《 基 本 理 念 》

『次世代に緑豊かな地球を継承するため、持続可能な資源循環型社会を形成する』

資源小国である日本の『もったいない』文化に端を発する再生資源リサイクルは、いまや地球規模の環境問題を解決するためのキーワードである。創業以来一貫して再生資源リサイクルを生業としてきた我々三栄サービスは、今後とも持続可能な資源循環型社会を形成する一翼を担っていくとともに、あらゆる側面で地球環境保護を目指し、全社を挙げて環境意識の高揚と、再生資源リサイクルに関する啓発を行っていく。加えて今期より『SDGsの17の国際目標のうち、以下の5つを三栄サービスの環境活動に取り入れることとする。』



《 環 境 方 針 》

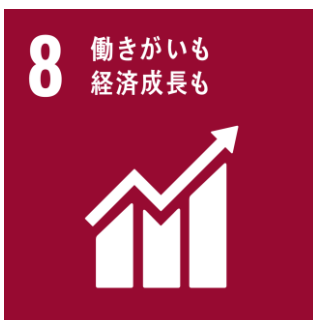
1. 環境目的を定めてその目標を設置し定期的に見直し、環境保全活動の継続的な向上に務める。
2. 事業活動に伴う環境負荷の低減を図る。
 - (1) 品質管理   
 - (2) CO2 の削減  
 - (3) 節水  
 - (4) グリーン購入の推進  
3. 地域社会とのコミュニケーションを図り、地域社会の生活環境保全に努める。
4. 事業活動に関する適用可能な法規制等を順守する。
5. 環境方針は文書化し、全従業員が周知し、実施できるよう環境教育を実施し、意識の向上を図る。
6. 本方針を含め、環境経営システムの定期的な見直しと継続的改善に努める。

第五版 平成30年8月1日
株式会社 三栄サービス
代表取締役 紺野 琢生

《三栄サービスの環境活動に取り込む5つのSDGs(持続可能な開発目標)》



三栄サービスの事業内容は「回収した古紙を原料にし、できるかぎりの再活用に努める」ことであり、資源リサイクル＝エネルギー使用量削減、という意味で事業内容そのものがこの目標と合致していると考えます。今後も引き続き、町に埋もれている資源がゴミになってしまう前に回収し、できるだけ再利用することでCO2削減につなげていく。



三栄サービスは『三つの繁栄』の経営理念、『お客さまの繁栄』『社員と家族の繁栄』『社会全体の繁栄』をもって会社の繁栄と為すの精神で事業を行っている。
この理念を全うすることで、社員の仕事への満足度と経済の発展の両立を目指していく。



ものが「ごみ」になってしまう前に、リサイクル・リユースルートに乗せて、できる限りの再利用に努めることがわたしたちの仕事である。ごみとして捨てられてしまう資源をいかに減らすか、排出者の方々に周知を図ることでつかう責任を果たす手助けをしていく。同時に、選別が徹底された高品質な原料を製紙会社に出荷することで、つくる責任も果たしていく。



気候変動の程度を小さくするためには、CO2排出量をできるだけ減らしていくことが重要になる。7.でも触れているが、資源リサイクルがゴミの削減につながるという意味で、リサイクルの輪をより広げていくことが、気候変動への対策になるので、今後も市民とのコミュニケーションなどにおいて、リサイクルの知識の周知を図っていく。



社会の問題がグローバル化して複雑になっていて、個々の問題に個別に対応しては解決が難しくなっている昨今、パートナーシップの活性化が重要になってくる。我々再生資源リサイクル業界には多くの団体があり、情報交換などのネットワークは構築されているので、今後は広域での事業連携ができるように工夫していく。また、回収作業やイベント等で市民の方と直接交流する機会も多いため、お客様と関連団体への連携につながる取り組みを

社内より発信し、地球を守るという目標達成につなげるように努める。

《 事業活動の概要 》

1. 商 号 株式会社 三栄サービス

2. 所 在 地

東京都東村山市久米川町1-16-5

電話042-391-5498 FAX042-391-5416

ホームページアドレス <http://3a-s.jp>

3. 代 表 者 代表取締役 紺野 琢生

4. 設 立 昭和45年10月

5. 資 本 金 2,000万円

6. 事業規模

活動規模	単位	第49期 H30.8～R1.7	第48期 H29.8～H30.7	第47期 H28.8～H29.7
処 理 量	t	13,637	13,729	12,910
売 上 高	百万円	565	536	536
従 業 員	人	20	20	24
床 面 積	m ²	1,092	1,092	1,092

※産業廃棄物収集運搬実績（実績報告年度別）

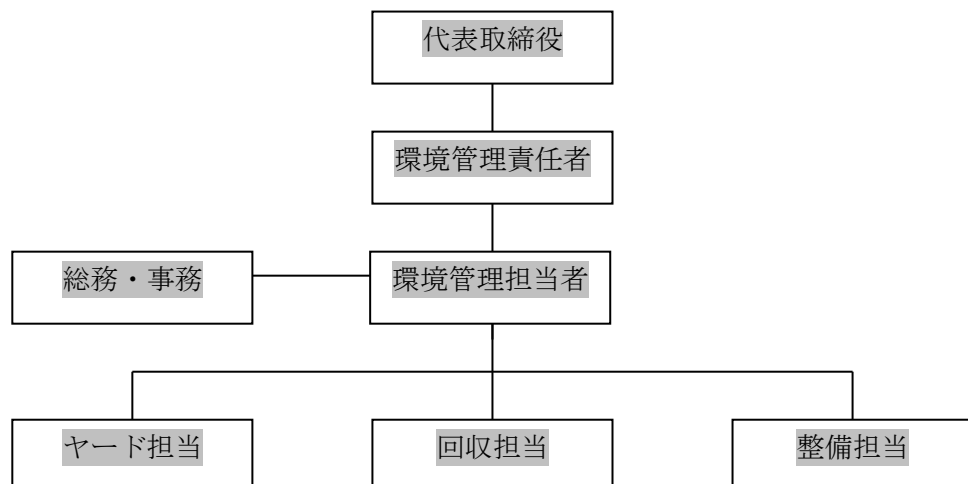
実績報告年度		H30.8～R1.7	H29.8～H30.7	H28.8～H29.7
産業廃棄物収集運搬実績(t)	木くず	0	3.58	3.41
	廃プラスチック	19.2	22.8	15.40
	計	19.2	26.38	18.81

7. 環境管理責任者

・環境管理責任者 氏 名 鈴木 博恭

電 話 042-391-5498

8. 組織図



9. 事業内容

(1) 各種許認可等

許認可	区域	許可・登録番号	許可・登録年月日	有効年月日
産業廃棄物収集運搬業	東京都	13-00-018088	平成6年6月	令和6年6月
産業廃棄物収集運搬業	埼玉県	1102018088	平成6年5月	令和6年5月
廃棄物再生事業者登録	東京都	第62号	平成5年5月	—
一般貨物自動車運送事業	—	関自貨第1077号	平成15年10月	—
古物商許可	東京都	308911308115号	平成25年8月	—
日資連再生資源回収事業者認定	—	N13K-00148号	平成17年11月	平成32年11月
全原連古紙商品化適格事業所認定	—	C-01-052-01号	平成19年9月	令和4年3月

(2) 免許・有資格者等

中型（8ト限定）	19名	小型車両系建設機械	9名	安全衛生推進者	2名
車両系建設機械	2名	運行管理者	2名	安全運転管理者	1名
ショベルローダー	2名	整備管理者	1名	環境カウンセラー	1名
フォークリフト	14名	一般計量主任者	2名	古紙リサイクルアドバイザー	4名

(3) 取扱品目

種別	取り扱い品目	許可区域
産業廃棄物	紙くず、繊維くず、金属くず、廃プラスチックくず、木くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類、廃油、汚泥	東京都 埼玉県
再生資源物	古紙類・金属類・古繊維類	

(4) 保有車両・設備

	車両・設備	積載量・能力	台数	動力
設備	古紙プレス機	150馬力	1台	電気
	トラックスケール	20トン台貫	1台	電気
車両	3.5トトラック	3,500kg	1台	軽油
	3トトラック	2,950kg	1台	軽油
	3トダブルキャビントラック	1,950kg	1台	軽油
	2トトラック	2,000kg	9台	軽油
	4トパッカー	2,750kg（8.0m ³ ）	1台	軽油
	3.5トパッカー	2,950kg（5.8m ³ ）	1台	軽油
	2トパッカー	2,000kg（5.5m ³ ）	1台	軽油
	3トパッカー	2,350kg（5.3m ³ ）	1台	軽油
重機類	3トクランプリフト	3,000kg	1台	電気
	2.5トフォークリフト	2,300kg	1台	電気
	2トフォークリフト	2,000kg	1台	ガソリン

10. 廃棄物処分料金・再生資源物買取料金（引き取り手数料）

料金表による。当社へお問い合わせ下さい。 042-391-5498

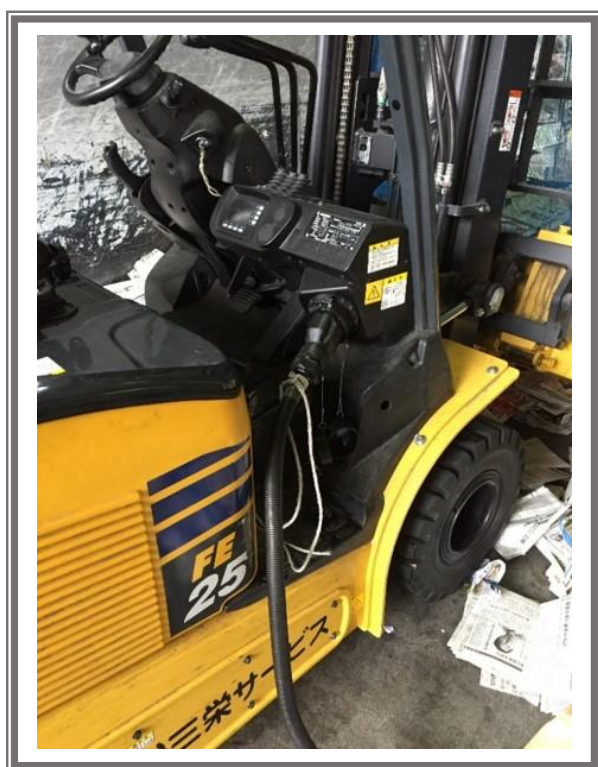
■ 3トンパッカー



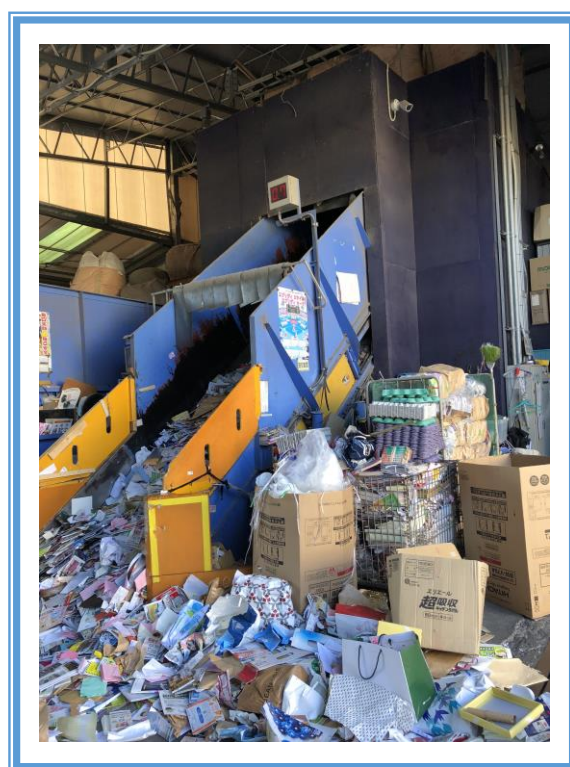
■ 3トントラック



■ 2. 5トンフォークリフト(電気)

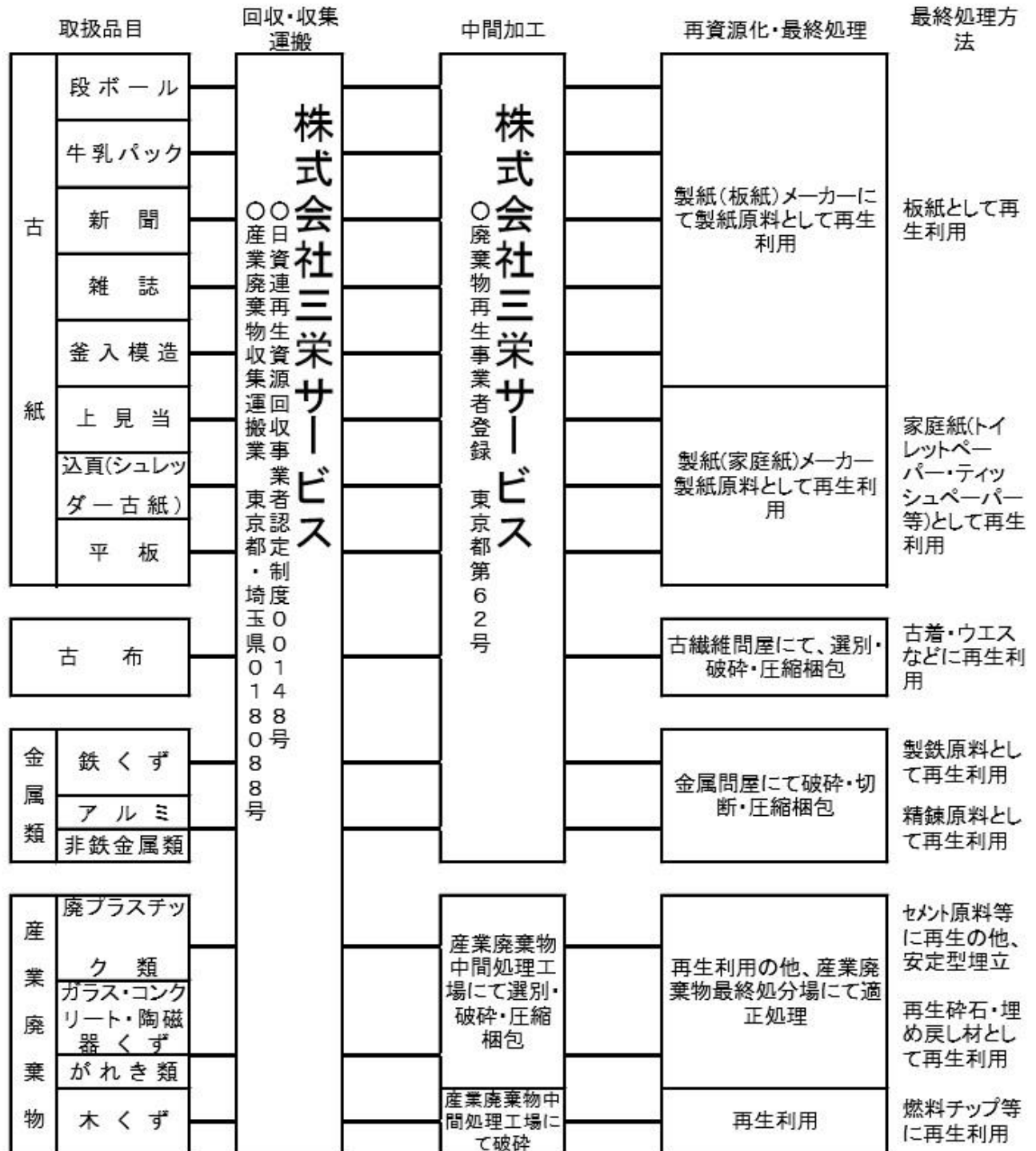


■ 古紙プレス機



《 処理フロー図 》

(株)三栄サービス リサイクル・廃棄物処理フロー図



《 環 境 目 標 》

大項目	項目名	第４７期 (H28.8～29.7) 基準値	第４９期 (H30.8～R1.7) 目 標	第４７～５０期 (～R2.7) 中長期目標
品質管理	品質管理の徹底とクレームの防止	—	クレーム０件	クレーム０件
CO２削減	CO２排出量の削減	９８，９１７．９８ Kg - CO2	１．５％削減	２．５％削減
	ガソリン・軽油使用量の削減	月平均使用量 軽油(車両１台あたり) １，４２６．５ℓ/台 ガソリン ９１．３ℓ	第４７期実績に対し １．５％削減 燃費の計測	第４７期実績に対し ２．５％削減
	電力使用量の削減	月平均使用量 ８，０７５kwh	第４７期実績に対し １．５％削減	第４７期実績に対し ２．５％削減
節水	水使用量の削減	月平均使用量 １２．３m³	第４７期実績に対し ０．３％削減	第４７期実績に対し ０．５％削減
グリーン購入	備品・消耗品購入時のグリーン購入	備品・消耗品の購入時に環境にやさしい製品を優先購入する。	備品・消耗品購入チェックリストを作成し、環境にやさしい製品かどうかのチェックを行い、グリーン購入の推進に努める。	
外部コミュニケーション	市民や客先への環境啓発活動	各市イベント参加、職場体験・工場見学受け入れ	各市リサイクルイベントへの参加や、職場体験学習、工場見学などの受け入れを通じた市民への環境啓発活動や、客先への分別指導に努める。積極的な情報発信に努める。	
環境教育	社員の環境意識の向上	社内研修２回 緊急訓練１回	環境意識の向上や分別指導を目的とした社内研修を定期的実施する。	

《 主要な環境活動計画の内容 》

大項目	環境目標	環境活動計画の内容
品質管理	品質管理の徹底とクレームの防止	- 取引先からのクレーム件数・内容の把握 - 再発防止策を検討する。
CO2削減	ガソリン・軽油使用量の削減	- エコドライブ手順の作成に則り、行政回収や事業所等からの収集運搬に組み行う - エコドライブ手順に従い、エコドライブ10ヶ条の実施 - 自社トラック・パッカー車等の軽油・ガソリン使用量・燃費の把握 - 行政回収及び事業所等の回収の効率化の実施。エコドライブの推進に心掛ける - 低燃費車への切替
	電力使用量の削減	- 電力使用量の把握 - 省エネ手順の作成に則り、機械及び事務所使用の節電に組み行う - 省エネ器具の設置及び省エネ機器への切り替え
節水	水使用量の削減	- 水道使用量の把握 - 節水手順の作成に則り、機械及び事務所使用の節水に組み行う
グリーン購入	備品・消耗品購入時のグリーン購入	- グリーン購入推進の徹底 - 消耗品購入チェックシートの作成
外部コミュニケーション	市民や客先への環境啓発活動	- 職場体験やヤード見学等の積極的な受け入れ - クレーム等への迅速な対応 - リサイクル情報の発信
環境教育	社員の環境意識の向上	- 社員研修会の実施 - 緊急訓練の実施

《 環境活動への取り組み結果と評価 》

(1) 環境活動への取り組み結果

環境目標		第 47 期 基準値	第 49 期 目標	第 49 期 実績 (30.8 月～令和元.7 月)	達成度
品質管理	品質管理の徹底とクレームの防止	—	クレーム 0 件	クレーム 1 件	△
CO2 削減	CO2 排出量の削減	(第 47 期) 98917.98 kg-CO2 ※平成 25 年度東京電力実排出係数 (0.531kg-CO2/kwh)を使用		排出量 106,209.58 kg-CO2	△
	ガソリン・軽油使用量の削減	月平均使用量 軽油 1,426.5 ℓ/台 ガソリン 91.3ℓ	第 47 期実績に対し 1.5%削減	月平均使用量 軽油 1,647.9ℓ(15.5%増) ガソリン 66.7ℓ(36.9%減)	軽油× ガソリン○
	電力使用量の削減	月平均使用量 8,075 kwh	第 47 期実績に対し 1.5%削減	月平均使用量 8,233Kwh (1.9%増)	△
節水	水使用量の削減	月平均使用量 12.3 m³	第 47 期実績に対し 0.3%削減	月平均使用量 14.7 m³ (19.5%増)	×
グリーン購入	備品・消耗品のグリーン購入	備品・消耗品の購入時に環境にやさしい製品を優先購入する。		環境にやさしい製品の優先購入を呼び掛けた。	○
外部コミュニケーション	市民や客先への環境啓発活動	各市イベント参加、職場体験・工場見学受け入れ		東村山市他各市のリサイクルイベントに参加。 市民団体の見学受け入れ(1 件) 職場体験の受け入れ(1 校) 広報誌『三栄です』の発行(ホームページに更新)	○
環境教育	社員の環境意識の向上	社内研修 2 回 緊急訓練 1 回		社員研修会・緊急訓練の実施 組合安全講習会への参加 協力業者会による安全・環境推進の研修会の開催	○

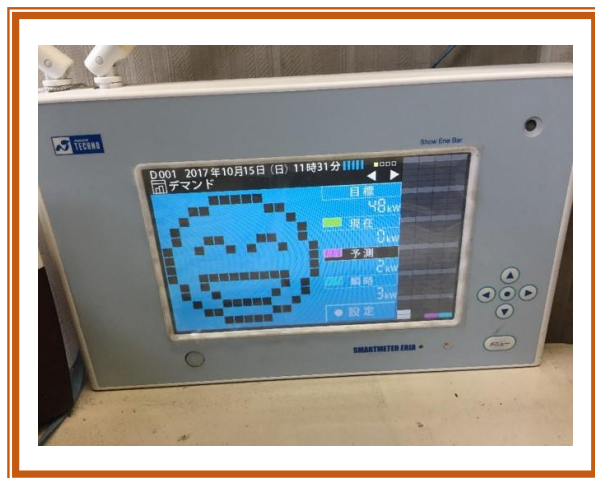
※評価の凡例

○：目標達成 △：目標未達であるが様子を見る（達成率 100%未満～90%） ×：要是正措置（達成率 90%未満）

(2) 取り組み結果の分析

環境目標		取り組み結果の評価	見直し
品質管理	品質管理の徹底とクレームの防止	クレームは1件(ワックスコーティングの段ボールの混入への注意)分別の徹底がほぼできた。	クレーム品の見分け方を現物にて全従業員に周知した。継続して分別の徹底を図っていく。
CO2削減	ガソリン・軽油使用量の削減	ガソリンは基準値比・前年比ともに削減できた。軽油は前年に引き続き他社への荷卸しで移動距離が増え、増加してしまった。	エコドライブ10ヶ条の全従業員への再度周知、引き続き社員全員の意識を高める。
	電力使用量の削減	基準値比は微増、前年比では削減できた。	引き続き節電に努める。
節水	水使用量の削減	基準値比・前年比ともに増えてしまった。	事務所トイレの故障などが原因であるが、引き続き節水に努める。
グリーン購入	備品・消耗品購入時のグリーン購入	環境にやさしい商品を購入した。	引き続き、環境にやさしい商品を購入する事を心がける。
外部コミュニケーション	市民や客先への環境啓発活動	各市のイベントや、職場体験、工場見学に参加出来た。	各イベントを通じ市民への、環境啓発活動や分別指導、情報発信に努めていく。
環境教育	社員の環境意識の向上	定期的に実施した社内研修により、環境意識の向上や、分別に対する意識が高まった。	社員による安全環境ミーティングや社内研修を実施し、意識向上に努めていく。

■ガソリン使用量・電気使用量の削減への取り組み



■各市のイベントや職場見学、工場見学の様子



(3) 次年度の取り組みの内容

環境目標		取組内容
品質管理	品質管理の徹底とクレームの防止	社員全員でクレーム情報・禁忌品の見分け方を共有し、分別の徹底を図る。
CO2削減	ガソリン・軽油使用量の削減	環境安全ミーティングでの、更なる意識喚起 エコドライブの推進強化 日常点検、整備の徹底。
	電力使用量の削減	引き続き、機械に負荷のかからない運転を心がけると共に、事務所を含め、無駄な電気を使わず、こまめに電源を抜くなど、更に節電に努める。
節水	水使用量の削減	引き続き、蛇口の開口を制限するなど、節水に努める。
グリーン購入	備品・消耗品購入時のグリーン購入	環境にやさしい商品を、積極的に購入する。
外部コミュニケーション	市民や客先への環境啓発活動	資源回収時、回収員と客先のコミュニケーションをさらに深めていく。 イベントや見学受け入れの模様を広報誌等でアピールし、より拡充する。
環境教育	社員の環境意識の向上	引き続き、環境・安全推進委員会にて、スローガンの策定、唱和をし、指導教育をしていく。

《 環境関連法規への違反・訴訟等の有無 》

(1) 適用される主な法規制の遵守状況

法規制	チェック結果	状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	○	問題なし
各種リサイクル法	○	問題なし
その他関連法規・条例など	○	問題なし

○・・・問題なし △・・・問題は無いが改善の余地あり ×・・・違反あり

(2) 違反・訴訟など

環境関連法規への違反・訴訟はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘は過去3年間ありません。

《 代表者による評価と見直し 》

前期より、環境方針に SDG s を明記して取り組みを開始しました。グローバルに考え、ローカルに生きる「グローカリズム」という言葉がありますが、社員全員が、地球規模の環境問題を考えながら、持続可能な社会、会社を目指し、地域密着の事業を展開していくことを改めて意識付けすることを目指しました。

実際は、結果が数値として表れているとまでは言えませんが、社員の意識向上が一步前進したのではと自負しています。運行管理者の資格者が2名増えたことや、整備管理者に新たに選任を予定しているものが1名と人材が育ってきていること、班分けのミーティングや責任者による会議等で、安全や環境、作業効率の向上などの自発的なアイデアや取り組みが提案されているなど、全体での取り組みを推進していく土壌が固まりつつあります。引き続き、意識改革を積み重ねてまいりたいと考えています。

なお、主要な取扱品目である古紙の市況が急激に悪化しつつあります。このため、新年度に関しては、大幅な設備投資等が出来ない分、引き続き、作業効率の向上に努め、中長期的なスパンで環境負荷の低減に努めてまいりたいと考えております。

第50期を迎えた三栄サービスは、持続可能な資源循環型社会、持続可能な会社を目指し、この先10年、20年と歩みを進めてまいります。

令和元年10月01日

株式会社 三栄サービス

代表取締役 紺野 琢生

《 環境管理責任者・担当者によるコメント 》

今期は前年に比べて、ガソリン使用量は減少しましたが、電気・軽油使用量が増加してしまいました。この傾向は前年から続いていて、主な原因は昨年に引き続き新規顧客の増加と、特に行政回収量が増えていることが挙げられます。今まで燃えるゴミとして捨てられていたものが資源物として分別されるようになったのはありがたいことなのですが、逆に燃えるゴミまで資源物に混ぜてしまうマナーの悪い出し方も目立つようになってきました。そのため、回収時に余計な時間を取られてしまい、作業効率が下がってしまうという状況も出てきています。弊社のエコ活動を進めるにあたって、今後はお客様への啓発など、関連団体の皆様も巻き込んだ行動が必要になってくると思います。引き続き社員一丸となって取り組んでいきたいと思っています。

令和元年10月01日

株式会社 三栄サービス

環境管理責任者

部長 鈴木 博恭